

平成 24 年度第 3 回あいち森と緑づくり委員会における事業評価（案）に対する意見とその対応等について

| 項目等 | 委員意見 | 対応状況 |
|---------------------|---|---|
| 全般 （全体の体裁、位置づけ等） | <ul style="list-style-type: none"> ■全体の体裁の見直し（県民の皆さんに読んでいただけるよう） <ul style="list-style-type: none"> ・タイトルが難い（「明日の愛知の緑を支えるために」のような題名に） ・「はじめに」は内容を膨らませる（目的や今後の方向にもふれる） ・第1、第2は第1章、第2章とした方がよい（節はなくてもよいが） ・「今後に向けて」でもよいが、「はじめに」に対しては「おわりに」になる。 ・写真にキャプションが必要。（看板の写真は内容を見せる（税が活用されている）、里山整備の作業内容がわからない） ・図、表には章に対応した番号をつける。 ・表題「県民等の意識」の「等」や「その他のアンケート」の「その他」は、きちんと明記すべき。（多様な方々の目線で見ている） ■報告書をどのようにまとめるか。 <ul style="list-style-type: none"> ・本編と資料を合体するか、別にするか。また概要集を出すか。 ・図表と記述のバランスをどうとるか（わかりやすくは図表を多くだが何が読み取れるかはきちんと書かないといけない） ・「成果、波及効果」の記述が短い。アンケートは属性などの分析も。 ・データは平成24年度までできる限り載せる。 ■PRと報告は分けて考える必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・知っていただくということからはわかりやすく、報告はきちんとデータで残す。膨大な量では印刷費がかさむが、インターネット上に置くのも一つの方法。 ■報告書は、どのくらいの部数を印刷し、どういう広報をするか。 | <ul style="list-style-type: none"> ■全体の体裁を見直しました <ul style="list-style-type: none"> ・タイトル：原案の題名は副題としました ・はじめに：背景、目的等を記述しました。 ・章をつけました。 ・写真にキャプション、図、表には番号をつけました。 ・「県民等の意識」は「県民や事業関係者の意識」、「その他のアンケート」は「イベント、事業への参加者等アンケート」としました。 ・全体のスタイルを多少修正しました。 ・図とその記述について修正しました。 第4章の県民アンケートでは先に結果の概要を記述するとともに、各図にそれぞれの説明を加えました。 事業関係者アンケートではそれぞれの対象毎に表題をつけ図と説明を整理しました。 ■報告書は、周知（県民にわかりやく見ていただく）ということと記録（成果やデータをきちんと残す）ということから、本編の巻末に資料編を加えた形とした冊子とし印刷したいと考えます。 <ol style="list-style-type: none"> 1 事業報告書印刷、配布 県内公立図書館や関係機関に配布し県民の皆様にもいただき保管されるようにする。 2 県ホームページに掲載 3 事業報告を電子データにして公開、利用 （必要な都度印刷（冊子印刷省略による経費節減） HPからのダウンロードも可能 4 あわせて概要版を作成、適宜配布し周知、理解促進 * 上記資料等を活用しながら事業の取組状況等を発信するシンポジウムや成果発表等、理解促進や参加交流を促す取組を検討する。 <p>* 資料等は評価にとどまらず今後の事業の点検や効果的な実施に向けた検討の参考にしていきたいと考えます。</p> |

| 項目等 | 委員意見 | 対応状況 |
|---|---|---|
| <p>第5章 (事業の成果)</p> <p>(課題と今後の方向性)</p> <p>(事業の進め方)</p> | <p>■ P 4 0 環境活動・学習の参加人数があるが、延べ人数は気になる。同じ方が何回も参加していることが非常に多いのではないか。実際に参加者が増えているか今後検証が必要。</p> <p>■ P 4 1 「課題と今後の方向性」の「里山林整備事業」の記述で、竹林対策が問題とあるが、放置竹林、侵入竹林の対策が問題であり記述を正確にする</p> <p>■ P 4 2 「事業の進め方」の「地域のシンボルや景観を活かす」はもう少し詳しく天然記念物や文化財のバッファゾーンの森林整備を記述してほしい。</p> | <p>■実人数を把握していないので実態の把握はできません。また把握することはなかなか難しいと思います。普及啓発効果が高くなるよう今後活動が広まるような検討が必要と考えます。</p> <p>■記述を修正しました。</p> <p>■天然記念物や文化財等と具体的な記述に修正しました。</p> |
| <p>第6章 (今後に向けて)</p> <p>(その他)</p> | <p>■今後に向けての記述が少ない。取組はまだ十分ではなく充実させたいというような想いが記述されるとよい。質を高めることも含めて。</p> <p>■人的ネットワークの展開やかかわりが必要であり、「今後に向けて」の中で記述されるとよい。</p> <p>■森林整備の対象地の拡大、広葉樹植栽のメニュー、ライフライン確保等の意見がある。</p> <p>■人工林整備の効果に対する客観的資料があるとよい。森林・林業技術センターの調査データが載るとよい。</p> <p>■公益的機能の検証が必要。</p> <p>■森林・林業技術センターで継続調査をしていることをどこかに記す。</p> | <p>■今後に向けての記述を修正しました</p> <p>■市町村等の意見等に記述しています。</p> <p>■公益的機能の効果を簡単に数値で出し評価することは難しく、手入れがいきつどかない森林を整備することによって公益的機能を確保することを目的に事業を実施しています。森林・林業技術センターで人工林、里山林のモニタリング調査をしています。巻末資料にその調査の概要を掲載しました。</p> |

| 項目等 | 委員意見 | 対応状況 |
|------------------|---|---|
| <p>全体に関する意見等</p> | <p>(全体に関する意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■木材の積極的利用への意見が多い、「木材の利用」を強調し、そういう視点を各事業等に取り入れ関連させることが環境学習にも役立つ。 ■木材の利用については、需要拡大の視点を強くし、生産目的の資金投入はやめたい。 ■税の事業では都市緑化は質の高い緑を高める、生物多様性を高めるといような違いを出さないといけない。 森と緑づくり事業は生物多様性の視点が必要。 ■環境学習は森と緑づくりを理解し広めるよい仕組み。横断的な連携が必要。 ■木の香る学校づくり事業には机、椅子を森や木とつなげ伝える仕組みを作る必要がある。またデザインや使う学校の要望を聞きながらいいものを渡していく仕組みをつくる必要がある。 ■学校の木の机はデザインが悪い。デザインコンペをやったらどうか。 ■木の学校とか木の机・椅子は子供達への心理的効果があると聞く。追跡的に調査があればよい。 ■税を投入しなくても整備が続くような視点をもって事業展開することも必要。 ■愛知県全体に種をまくような新しいアイデアをいただくような固定的でない枠のようなものが考えられないか。 ■環境学習の指導者養成、森の大切さを伝える人をつくるのが大事。 ■人材育成、県民のサポートをうまくかみ合わす、そのきっかけをどう作っていくか検討が必要。 ■情報へのアクセス、活動の交流拠点があるとよい。 | <ul style="list-style-type: none"> * 全体的に意見等を踏まえ今後の事業の取組に活かしていく。評価書記述にかかる対応は下記のとおり。 ■P 4 2 新たに加える視点、重要な視点に、新たに加える視点として「木材利用」を記述しています。 ■P 4 2 新たに加える視点、重要な視点に、重要な視点として「生物多様性確保」を記述しています。 ■P 4 1 「環境活動・学習推進事業」の中で記述しています。 ■P 4 1 「木の香る学校づくり推進事業」の中で、森と緑の大切さの普及の普及、学習のサポートとの連携について記述しました。 ■P 3 9 木の香る学校づくり推進事業関係にデザイン、学校の要望を聞く等を追加記述しました。 ■心理効果の追加調査は今後検討。既存の学術研究はあり。 ■P 4 2 「事業の進め方」で地域づくりと連携した事業展開を記述しています。 ■P 4 2 「事業の進め方」で、アイデアや自主的な活動を吸い上げ様々な提案に対応する仕組の検討を記述しています。 ■税の事業の目的に沿った森や緑の整備等とあわせ、人的ネットワークづくりや参加交流の拡大の促進等、より効果的な事業につながる進め方等を考えていきたい。 |

